

北海道南西沖地震

震災15周年鎮魂行事

2

平成5年に発生した北海道南西沖地震から、15年目の7月12日、徳洋記念緑地公園内の慰霊碑「時空翔」と「奥尻島津波館」で、鎮魂行事が行われました。

時折、小雨が降りしきる中、ご遺族をはじめ、青苗小・中学校の児童生徒や来賓・町民など、あわせて約420人が出席し、奥尻島地域再生プロジェクト推進協議会・会長代行の明上雅孝氏は、「私たちは、この大災害を決して忘れてはいけぬ出来事として、後世に語り継いでいかなければなりません。この奥尻島を島人の持つ島ヂカラで、支えていくことを約束します。」と鎮魂のメッセージを読み上げました。

▲追悼の意を込め、「あの日の出来事は後世に伝えていきます」と語る和田町長

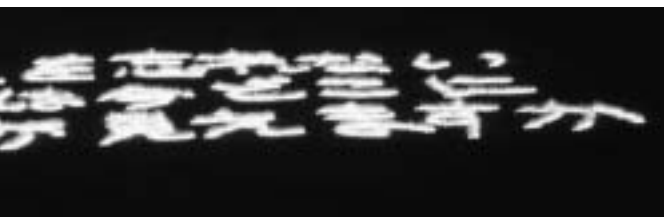


▲鎮魂のメッセージを読み上げる明上雅孝氏

そして語り継ぐ



青苗小・中学校の児童生徒とご遺族、来場者の方々と千五百本の「鎮魂キャンドル」を点灯し、「奥尻島」の形と「7・12を忘れない あなたはいまどこに 私たちが見えますか」のメッセージが夕闇の中、犠牲者の魂を鎮めるように灯っていました。



▶麻生直子さん
「憶えていてください」朗読。



麻生直子さんによる「鎮魂詩・『憶えていてください』
『花に眠る』」の朗読。
この詩には、「犠牲となった人々の魂を受け継ぎ、当時の辛かった出来事を忘れないでいてほしい」という願いが込められています。
「憶えていてください」は、慰霊碑に犠牲者198人の名とともに刻まれています。



▲時空翔の献花台には、和田町長、奥尻島地域再生プロジェクト推進協議会副会長の森川廣光さん、作家の麻生直子さん、星悦子さん（「姫神」星吉昭さんの妻）、青苗小中学校の児童生徒の代表が献花をしました。

あの時を忘れない

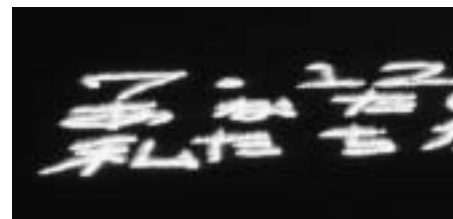


▲ブーニン氏寄贈のピアノを犠牲者となった方々に哀悼の意を込めて演奏する吉田さん

奥尻島津波館では、函館市出身のピアニスト吉田千紗さんによる「鎮魂コンサート」が行われました。

演奏に使用されたピアノは、世界的なピアニスト、スタニスラフ・ブーニン氏が、震災後に稲穂小学校に寄贈してくれたもので、閉校となった現在は、宮津小学校で大切に保管されているものです。

吉田さんは、鎮魂曲として5曲を演奏し、会場に集まった多くの人たちは、美しい音色に聞き入っていました。



青苗小・中学校、120名の児童生徒による「岬の誓い」の合唱。

震災当時、または、それ以降に生まれた子供たちで、震災当時の記憶はありませんが、亡くなった犠牲者の方々を弔う気持ちで、雨の降る中、一生懸命歌いました。

◀青苗小・中学校の生徒120名による合唱▶